

部隊略歴

輜重兵一七連隊

<p>期 自昭一三、四二〇 至同 一八、七三〇</p>	<p>期 自昭一三、四二〇 至同 一八、七三〇</p>	<p>期 自昭一三、四二〇 至同 一八、七三〇</p>
	<p>一、概要</p> <p>1. 編成反先結 軍令陸甲才一七号に基き四二〇編成に着手す 同耳七、一五編成先結す</p> <p>2. 中支派遣 師団命令に基き同年八、三守品港出帆八、六上海上陸后 八、九より新駐地蘇州に至り担当地区を警備に任ず</p> <p>3. 昭一六、四より師団は江蘇省徐州附近に移動す 部隊は四、四より新駐地徐州に移転先了し同地附近の 警備に任ず</p> <p>4. 作戦のため一部参加を命ぜられたることあるも詳細 不明なり</p> <p>5. 部隊主力を以て参加せる主要作戦后互記の如し</p>	<p>損耗僅少 軟果大なり</p>

自昭一八八七  
至同二八九三  
自昭一八九三  
至同二九四三  
オニ次ビスマルク駐

イ、 鐵塔五南岸作戦  
ロ、 迂南作戦  
ハ、 漢水、予南作戦  
ニ、 オニ次爲南乗共作戦  
ホ、 過河作戦  
ヘ、 沃澤作戦  
各作戦大隊以下三〇〇名乃至四〇〇名なり

六、 南方方面の転進  
イ、 師団主力は南方方面の転進のため八月初旬より逐次上海南郊附近に部隊の集結を爲す  
ロ、 部隊は八一〇名。出発一、三、上海に到着同地附近の警備並に転進準備を爲す

一、 ビスマルク群島駐作戦（自昭一八九三、四、至一八、一、二、四、）  
ニ、 ノーブリテン島「ラバウル」反撃戦  
陸隊長 大 伍 今村瓦雄 以下二五六名  
1、 編成 陸隊本部 陸隊長以下 八名  
オニ中隊 中隊長以下 二〇四名

<p>自動車小隊 小隊長 以下 四六名  (オ三三、四、中隊欠)</p>	<p>2. 又一中隊主力は自二二七、至二二四の南松川偵察隊として「ラバウル」——英武庫の「ヨーブリテン」船北岸道路偵察を実施す</p>	<p>3 自動車小隊は「ラバウル」丸末に於て輸送業務を  自動車約三〇輛</p>	<p>小隊長 中尉 小川利男以下四六名  ニ「マークス」ツルブ祿賦(自昭一八一三、一五、至昭一九二二)「ヨーブリテン」船英武庫「ウバイ」</p>	<p>連隊長 大佐 今村 武雄 以下二四五名  1. 立井掃蕩隊は自二九三、ハ、至一九三三。の間中「カナ」山脈の敵諜報隊肉を求めて攻襲三、一四「ウム」</p>	<p>附近に於て白人の指針する土民軍約五〇と交戦該地附近に於て敵諜報隊肉を覆滅す  隊長 少尉 立井右男 以下一五名</p>	<p>被害</p>	<p>戦死 七名  馬匹一〇頭</p>	<p>昭一八三三「ヨボ」に於て  爆死</p>	<p>立井掃蕩隊  戦果</p>	<p>自動小銃一  擧棄死 件五</p>	<p>戦死 一  負傷 一</p>
--	---	--	--	---	--	-----------	-------------------------	-----------------------------	----------------------	--------------------------	-----------------------

<p>2. オ一中隊は「ウバイ」に於て製式——「ウバイ」間の軍需品輸送（奮力）</p> <p>中隊長 大尉 松川竹夫 以下約一〇〇名</p> <p>3 自動車小隊は「ラバウル」乳不交に於て輸送業務</p> <p>川隊長 中尉 小川利男 以下 四〇名</p> <p>三「カウ」隊へ自衛一九、三、五、至一九、四、二八</p> <p>「ミート」隊「ウバイ」——「ロイオロ」——「トリウ」——「ラバウル」</p> <p>連隊長 大佐 今村 武 雄 以下三〇四名</p> <p>1. 連隊は（自三、二〇、二、三）の向主力を「ロイオロ」に於て兵站業務を南放區部隊の清治給養業務の収獲後送</p> <p>に任す</p> <p>「ウバイ」兵站支部 少尉 安部康正 以下四〇名</p> <p>「カペイ」兵站支部 少尉 岡田圭三 以下五名</p> <p>2 自動車小隊は「ラバウル」「シナツブ」に在りて輸送業務を</p> <p>実施す</p> <p>川隊長 中尉 小川利男は臨時編成オ一中隊歩兵大隊</p> <p>オ三中隊中隊長として「シナツブ」に於て「カウ」隊部隊</p> <p>に對する兵站業務に従事す 川隊長以下四〇名</p>	<p>漢語</p> <p>戦死 —</p> <p>（「ロイオロ」に於て銃害）</p>
--	--

自昭一九四三九 至同一九一〇三〇 カニ次ビスマルク靴	自昭一九二二一 至同二〇四一五 カニ次ビスマルク靴
一、「ラバウル」警備（自昭一九四三九至一九一〇三〇） 「ミコブリテン」島「ラバウル」デキダブ 連隊長 大佐 今村武雄 以下約四五〇名 一、昭一九七、二五、畢令陸甲カ六七号に依り編成改正 連隊長 以下 四一〇名 カニ中隊 中隊長 以下一一五名 カニ中隊 中隊長 以下一一八名 カニ中隊 中隊長 以下一七〇名 二、カニ中隊、カニ中隊は「デキダブ」に於て輸送業務 第一中隊長 中尉 小川利男 以下一一五名 第三中隊長 中尉 松川竹夫 以下一〇〇名 三、カニ中隊は「ランブルブル」に於て輸送業務 中隊長 中尉 中野英夫 以下一一八名 二、「ラバウル」警備（自昭一九二二一、一至二〇四一五） 「ミコブリテン」島「ラバウル」軍庫 連隊長 大佐 今村武雄 以下四四五名 一、カニ中隊は「デキダブ」に於て輸送業務 二、カニ中隊は軍庫に於て輸送業務	一、「ラバウル」警備（自昭一九四三九至一九一〇三〇） 「ミコブリテン」島「ラバウル」デキダブ 連隊長 大佐 今村武雄 以下約四五〇名 一、昭一九七、二五、畢令陸甲カ六七号に依り編成改正 連隊長 以下 四一〇名 カニ中隊 中隊長 以下一一五名 カニ中隊 中隊長 以下一一八名 カニ中隊 中隊長 以下一七〇名 二、カニ中隊、カニ中隊は「デキダブ」に於て輸送業務 第一中隊長 中尉 小川利男 以下一一五名 第三中隊長 中尉 松川竹夫 以下一〇〇名 三、カニ中隊は「ランブルブル」に於て輸送業務 中隊長 中尉 中野英夫 以下一一八名 二、「ラバウル」警備（自昭一九二二一、一至二〇四一五） 「ミコブリテン」島「ラバウル」軍庫 連隊長 大佐 今村武雄 以下四四五名 一、カニ中隊は「デキダブ」に於て輸送業務 二、カニ中隊は軍庫に於て輸送業務
横害 戦死 二 （銃 害）	横害 戦死 一 （銃 害）

<p>彼</p>	<p>自昭ニ。四、一六 至同ニ。八一四 才五次ヒスマルク戦</p>
<p>員</p> <p>終戦后参謀監督の下に「ヨーロッパ」島「ラバウル」出帆五。呂古屋上陸 同月一日 彼員解隊せり</p>	<p>一、「ラバウル」警備（自昭ニ。四、一六 至同ニ。八一四）        大隊長 大 佐 今村武雄 以下約四四〇名        1. 才一中隊は「デキタブ」に於て輸送業務        中隊長 中尉 小川利男（七、三〇。七） 以下約二〇名        大尉 野上克夫（七、三一より）        2. 才ニ、三中隊は葦原に於て輸送業務        才ニ中隊長 中尉 平野英夫（六、三〇。七）        中尉 麻川利夫以下一〇名        才ニ中隊長 大尉 松川竹夫（六、三三。七）        中尉 中村朝次以下一六〇名</p>
	<p>煥啓 戦死一 （銃 密）</p>

第十七師団通信隊部隊略歴

<p>期間 自昭一三 至同二八七三一</p>	<p>主 要 作 戦 々 々 斗 行 動 繁 秀 の 概 要</p>
<p>自昭一三四二〇 至同二八七三一</p>	<p>一 概 要</p> <p>1. 編成及完結          昭一陸甲才二一号に基き昭一三四二〇編成に着手し同年七、二〇編成          完結</p> <p>2. 中支派遣          師団命令に基き同年七、二八宇品港出帆し七、三一上海上陸八、三より行動          を開始し蘇州に進駐し各部隊間の通信連絡に任ず</p> <p>3. 昭一六四より新駐地江蘇省徐州に於て同地各部隊の通信に任ず</p> <p>4. 作戦のため一部参加せしむ詳細不明なり</p> <p>5. 部隊主力を以て参加せる作戦及び記の如し</p> <p>イ 鉄唐江南岸作戦          ロ 江南作戦          ハ 漢水隊南作戦          ニ 太湖西方作戦          ホ 才二次魯南剿共作戦</p>

自昭一八、八、一  
 至同 一八、九、三  
 自昭一八、九、三  
 至同 一八、九、三  
 才三、ビマルク、戦  
 ビスマルク群島  
 直 駐 作 戦

へ 瀬河作戦

ト 茨沢作戦

各作戦とも隊長以下約一五〇名至二五〇名なり  
 6 部隊は南方作戦駆進のため師団命令に基き昭一八、八、三より行動を  
 開始し上海に至り各部隊間の連絡をなすと共に次期駆進の準備を  
 怠す

一、昭一八、九、三少尉前田秀夫以下四五名先遣隊として南潯派遣のため上  
 海出帆同月一〇、九、三「ヨコブ」島、「ラバウル」島、「アム」島、「ラバウル」出帆同日  
 「ブーゲンビル」島、「タリナ」島、「グア」島、「セ」島に配属せらる。同地附近の作戦  
 警備通信連絡に任ず

二、通信隊長 大尉 香西 猛以下一七〇名は昭一八、九、三上海出帆二、  
 四、「ヨコブ」島、「ラバウル」上陸し同地附近の警備並に通信業務に任ず  
 師団命令に基き同月一〇、三、隊長以下一七〇名「ラバウル」出帆同日  
 式上陸同時附近の警備通信に任ず

三、「ラバウル」に於て無敵一分隊 小森支隊に配属  
 四、同 同 松川偵察隊に配属





9の外

東部

の三

	<p>自昭ニ。四、一六 至同ニ。八一四 オ五次ビスマルア戦</p>
<p>員</p> <p>一 終戦前泰軍監督の下に東団指揮を命ぜられ西貢貿易店に於て東団指揮を はす</p> <p>二 昭三、四未「ラバウル」発出帆五一。君古屋に上陸翌二一日復員解散せり</p>	<p>三 昭三、三。オ六遊撃隊へ一一君発出</p> <p>四 「トリウ」照沼支隊(エ74)へ無線一ヶ分隊配属</p> <p>五 歩兵オ五三連隊へ無線一ヶ分隊配属</p> <p>二 「ラバウル」小森山に在りて作戦準備通信業務、陣地構築並に補給断絶下 の瘦地自活をなし終戦に至る</p>

第十七師回第一野戦病院略歴

<p>野戦病院 番号</p>	<p>主 要 作 戦 々 々 行 動 業 務 の 概 要</p>
<p>自昭一三、一一、一一 至同 一八、七、三一</p>	<p>一 概 要 一、部隊は師団命令に基き昭一三一一、一より編成に着手す 同月一一、一五編成完結、オ一七師団野戦病院と呼稱す 二、中支派遣 一、師団命令に基き同月一一、二二、大阪港出帆、同月二四日上海に上陸 し師団長の指揮に入り二、二六より行動を開始し蘇州に至り病院を 開設す 三、昭一六、四より師団は江蘇省北部地区の警備を命ぜられ稼働を開始す 部隊は四、一〇、海州に至り同地に病院を開設す 四、作戦の爲一部参加せしめたるも詳細不明なり 五、部隊主力を以て参加せる主要作戦后互記の如し イ、 鉄唐江右岸作戦 ロ、 江右作戦 ハ、 漢水予右作戦 ニ、 才二次魯右刺六作戦</p>

0891

(361)

1279

小 湯河作戦

へ 茨澤作戦

各部隊とも隊長以下約一〇〇名至一五〇名有り

六昭一八、六一五部隊の編成改正を命ぜられ、六一七部隊が一野戦病院と  
呼稱し同年七一〇編成完結す

自昭一八、八一七  
七勃方への転進

至同二九、八一〇、一九

イ、師団主力は勃方転進の爲八月初旬より上海周辺に部隊を集結す

ロ、部隊は八一七海州出発 同日二八日上海到着 同地附近に在りて警

備並に転進準備をなす

ハ、ビスマルク群島駐作戦(自一八、一〇、二〇、至一八、一三、一四)

自昭一八、一〇、二〇

主力は病院長 軍医少佐 佐々木又祐以下約一三〇名は昭和一八、二二

至同二九、四、三ハ  
オ、ビスマルク戦

一ニ、ニコポリス島「ラバウル」上陸 同日より同地附近の警備 同年二、

二ニ、「ラバウル」出発 同日翼試上陸 同日より同地附近の警備

一部は軍医太尉 大牟田一却以下約九〇名 昭一八、二、五「ラバウル」上

陸 同日より同地附近の警備 同年二、三「ラバウル」出発 一ニ、三同島「ガスマ

タ」の「アカム」到着 同日より同地附近の警備

九「マーカス」シブルズ 作戦(自一八、二、一五、至一九、三、二四)

主力は病院長 佐々木軍医少佐以下約一三〇名 昭「ニコポリス」島翼試附近

ルの体

原 奇 ニヨクミ

其 の ミ

の警備反昭一九二一同地に於て野獣病院を開設し 尚其の一部は同島  
「アラセア」に患者収容所に開設す

一部は大卒軍医大尉以下九ノ君は「ムーブリー」島「ガスマヌ」アカム」附近  
の警備反昭一九三一一同地に於て野獣病院 オニ半部を開設す

一〇「カ号」作戦（自一九二五至一九四二）

主力は病院長 佐々木軍医少佐以下一ニ五君「ムーブリー」島「ガスマヌ」アカム」より  
転進、一部は大卒軍医大尉以下約ハ五君がスマヌ「アカム」より「ラバウル」  
に向へ夫々転進す

二「ラバウル」附近の妨害勤務

主力は病院長 佐々木軍医少佐、昭一九二七より水沼軍医少佐以下約

一ニ〇君「ラバウル」富士見台附近に於て 一部は大卒軍医大尉以下

約ハ〇君「ラバウル」小森山附近に於て「ラバウル」附近の妨害勤務をなし

終戦に至る

此の向主力は昭一九二八、富士見台に野獣病院を 一部は小森山にオニ

半部を夫々開設せり

三終戦以後 療養の監督の下に西藥房店に於て集団宿営をなし 復員時

に 集団病院を開設せり

- 自昭一九二四、二九
- 至同一九二〇、三二
- オニ次「スマルク」戦
- 自昭一九二二、一
- 至同二〇、四一五
- オニ次「スマルク」戦
- 自昭二〇、四一六
- 至同二〇、八一五
- オニ次「スマルク」戦

10  
の  
外

素  
部  
ニ  
ユ  
キ  
ア

兵  
の  
三

三、復員 昭三一、五 初旬「パウル」出帆 五、一四 呂古屋に上陸し翌  
五、一五 部隊の復員をなし解隊せり

第十七師団第三野戦病院部隊略歴

期間 会戦 々々 日 呂 縣	主 要 作 戦 斗 行 動 業 務 の 概 要	損 耗 等
自昭一八、九一八 至同二八、一〇一九	一、昭一八、五、一軍令陸甲カ三六号により昭一八、九、一八編成完結(上海に於て) 自昭一八、九、二八至一八、一〇、一九の向上海附近の警備に任ず	
自昭一八、一〇、二〇 至同二九、四、三ハ カ三ハ、ビスマルク、戦	一、ビスマルク群島直駐隊(自昭一八、一〇、二〇。至一八、一二、五)中支那上海港出港ラバウルへの直駐 1. カ三半部(堀川中尉以下一〇名) 昭一八、一〇、二〇。粟田丸にて上海出帆。同日ニニ日台湾東北方海上に於て敵潜水艦の攻撃を受け海没す 2. 主力(病院長以下約一〇名) 昭一八、一〇、二一。護国丸及び日友丸にて出帆途中「トラック」島近海にて敵機の攻撃を受けたるも一二、五、ラバウル港に上陸集結を完了す ニ「ラバウル」滞在(自昭一八、二六。至同二八、一三、一四)	喪失 戦死二一六名

<p>1. 昭和一八二五 一部々隊上陸中、敵約一五〇名の攻 害を受く</p>	<p>損害 戦死 九</p>
<p>2. 昭一八二五より前記上陸地実には、護送班（將校以下 四百）を約三日間拘虜せしむ</p>	
<p>三 西部「ラブリチン」島に転進「ツルブ」方面戦斗参加 へ自昭一八二五、至同一九二五</p>	<p>損害 戦死 四</p>
<p>1. 昭一九二五中旬「ラバウル」出帆海路「イボギ」上陸 2. 主力は直に「ツルブ」方面戦斗参加のため陸路前進中 「イボギ」附近「バヌー」河にて敵機の攻撃を受く同月下旬 「ツルブ」到着野戦病院を開放す同地区に於ける収容者 者約四百</p>	
<p>3. 一部へ三並中尉以下約二〇名を以て「イボギ」に於て 「イボギ」患者療養所を開放す 同地区に於ける収容者 者四〇〇名</p>	
<p>四「カ」号作戦参加（自昭一九二五至同一九二四二八） 西部「ニューブリテン」島地区より「ラバウル」に転進 1. 主力は概ね一月下旬「ツルブ」地区出發「カライアイ」</p>	<p>損害 戦死 三四 戦病死 二</p>



<p>自昭一九、四、三九 至同一九、二、三〇</p>	
<p>一、主力を以つて平島山附近のオニ半部を以て、「トニボイナ」に野戦病院を開設、主として「ラバウル」地区西部の患者を収束すると共に、「ウトム」島及西崎山及「ヨウ」島に夫々將校以下救護の救護班を派遣す。此の間に於ける患者収束救護</p>	<p>「奥武」―「ウラモナ」を至て概ね四月上旬、「トリウ」到着同地に「トリウ」患者療養所を開設す。同療養所収束患者約四〇〇。爾后四月三日同地出發。五月一日「ソナ」ツプ「到着」右極海中。一部を以て夫々巨龍地区に患者療養所を開設す。</p> <p>左 記</p> <p>(1) 「ウブモンダン」將校以下約三〇名を以つて患者約二〇〇名を収束す</p> <p>(2) 「カウ」 〃 一五名 〃 九〇名</p> <p>(3) 「ヌモン」 〃 二〇名 〃 八〇名</p> <p>(4) 「ウラモナ」 〃 二〇名 〃 三〇〇名</p> <p>2、昭一九、五、五「ラバウル」平島山附近に部隊全部集結を完了す</p>
<p>療養 敵死 二 救護死 七</p>	

11  
の外

東部  
三ノミ

史  
の  
三

カニ次ビスマルク 賦	二六四 啓	
自昭一九二二一 至同二〇、四二五 カニ次ビスマルク 賦	一、「ヨ」ノ島反西崎山救護班を撤収せる。他は依然として野戦病院を開設す 此の間に於ける収容患者約五二一 啓	瘧害 — —
自昭二〇、四二六 至同二〇、八二四 カニ次ビスマルク 賦	一同 右 此の間に於ける収容患者約二八七 啓	瘧害 — —
復 員	一、終戦市壕野監督の下に東田改管を命ぜられ鏡原集団に集団病院を開設 昭二二、五上旬「ニューブリテン」島「ラバウル」出帆 同年五、一七 啓 古座港上陸 同二八日復員解散す	

1285

(368)

1286

第三十八師団司令部略歴

<p>期国会戦々斗君種</p>	<p>主要作戦々斗行動業務の概要</p>
<p>自昭一七、二、三六 至同一八、四、三〇 南太平洋戦</p> <p>自昭一八、五、一 至同一八、一〇、三二 自昭一八、一一、一 至同一九、三、二四</p>	<p>一、ソロモン戦(自昭一七、二、三六至一八、三、一八) オ一七軍主力のガ島夜略戦膠着状態に入るや師団は「ホートモレスビー攻 略準備を中止し」の月下旬軍命令に基き米兵団司令部米ニハ、米 二三〇を承遣す、更に残留は一、六「ラバウル」港出港同ハ日「ボ」島「エレン 」に入港面に戦斗司令部等員、佐野師団長以下(核像各一撥護隊)約 五〇名は駆逐艦「文雲」老雲に分乗他は主力部隊と共に中間「ガ」島に 進及すべく処置し凡日午後「カ」島に向ふ進航す「ミ」島「ガ」島「ヌサワロン」 に上陸せり</p> <p>オ一次ビスマルク戦</p> <p>オ二次ビスマルク戦</p>

自昭一九、三、二五  
至同二九、一〇、三一

自昭二九、二、一  
至同三〇、四、一四

自昭二〇、四、一五  
至同二〇、八、一五

オマヒスマルク戦

昭二一、五、一三

オマヒスマルク戦

オマヒスマルク戦

作戦準備の完了のため必勝行争を設定に訓練へ旧攻、地直、攻毒、密林戦斗、対空戦闘、水陸戦闘、策、敵自派防意軍の確立を因り陸海空より表攻する敵に対し之が患滅を期せり

まきに「ズンゲン」に派遣せる歩二二九のオ一大隊（長成瀬少佐）は「ガスマ」又方面より北直する優勢なる敵と毒滅戦善戦敢闘の甲斐なく殆ど全員壯烈なる戦死を遂げたり熾烈なる敵爆毒下において益々作戦準備を強化し必勝行争を先成し北直する敵を阻止し敵機の攻撃に努めたり  
自派対勢も亦確立し終戦当時将長の意気は必勝を確立し天を驚くの戦ありたる

渡員完結

第三十八師団通信隊部隊略歴

期間 自昭一七、二、二六 至昭一八、四、三〇	主要 作戦 々々 行動 業務 の 概要
<p>自昭一七、二、二六 至昭一八、四、三〇</p> <p>南太平洋戦</p>	<p>一、「ガ島作戦」通信隊長 山之口大尉以下八一員 師団作戦有線線通信隊 略に任す</p> <p>二、「ボ」島「エレベント」待機（自昭一七、二、二六至昭一八、三、二六）</p> <p>三、「ラバウル」防衛勤務（自昭一八、三、二七至昭一八、四、三〇）</p>
<p>自昭一八、五、一 至昭一八、一〇、一</p> <p>オーストラリア戦</p>	<p>「ラバウル」周辺に在りて有線通信網構成陣地構築 有線線通信連絡現地自五 訓に任す</p>
<p>自昭一八、二、一 至昭一八、三、二四</p> <p>オーストラリア戦</p>	<p>同 右</p>
<p>自昭一九、三、二五 至昭一九、一〇、三一</p> <p>オーストラリア戦</p>	<p>同 右</p>

12  
の外

表部  
ニ  
ユ  
ギ  
ニア

其の三

	自昭三〇、四、一五 至同三〇、八、一五 カ五公ビスマルク、歐	同 右
	自昭一九、二、一 至同二〇、四、一四 カ四公ビスマルク、歐	同 右

1881

(312)

1290

自昭一七、二、二六  
至同二〇、八、一五

部隊略歴

山砲兵才三八連隊

期間、戦々斗斗召稱	主要、作、戦々斗斗行動業務の概要
自昭一七、二、二六 至同一八、四、三〇 大平洋作戦	一、ガパンが耐血管備へ自昭一七、二、二六、至同一八、四、三〇、連隊主力は才三 旅団の上陸稼前、依り其の補成を解け、兵力輸送中止となり、二、三、四、才三 八師団残置部隊、其の他を以て、才三残留隊を編成、現地特性に基く、敢 育及易格、作業道路の構築等に任じ、ガパン追送、降品等の諸作業に任ず、又 一師の中隊を「ガパン」及「ミトギア」方面に派遣す
自昭一七、二、九 至同一八、三、六 「ガパン」作、戦	連隊長 大佐 神吉武吉以下約一八〇。呂 才一中隊長 中尉 松浦五 成以下約一三〇。呂「ガパン」前進途中、二、四、敵の雷害を受け、遭難、ガパン、エレベ ンタに上陸、爾后「ガパン」耐血飛行場改定作業に從事す
(自昭一七、二、二六 至同一八、一、三)	才二中隊長 中隊長、中尉 榎木一夫以下一三一。呂 戦死 歩兵才三九連隊才三大隊長、密物少佐の指揮下に入り、二、一八、ミトギア 島「バザア」上陸、ガパン耐血の戦斗に参加、敢斗空しく殆ど全員壯烈なる 戦死を遂ぐ

<p>自昭一七二、二 至昭一八二、二</p> <p>自昭一七二、二 至昭一八二、二</p> <p>〔島作戦〕</p>	<p>カ大中隊長 中尉 永田兼彰以下一四七名、カ三八師団カ三八歩兵団長 伊東少将の指揮下に入り一、三が島上陸が島作戦に参加す</p> <p>カ七中隊長 中尉 高崎 享以下一三九名 歩兵三三〇連隊長東海林大 佐の指揮下に入り一〇、一五が島上陸が島作戦に参加</p>
<p>自昭一八二、二 至昭一八二、八</p> <p>〔島撤収作戦〕</p>	<p>カ八中隊長 中隊長 大尉 土肥正信以下一〇〇名臨時歩兵カ三三〇連隊 長 兵野少佐の指揮下に入り一、二四が島上陸が島撤収作戦 に参加す</p>
<p>自昭一八二、五、一 至昭一八二、三、一</p> <p>カ二大ヒスマルク戦</p>	<p>ニガバング 附近警備反ラバウル防衛作戦(自昭一八二、五、一 至昭一八二、三、一)</p> <p>連隊はハニラバウル防衛砲兵隊編成に依りカ一大隊を中砲兵隊長豊田 中佐の指揮下に入りト一三附近に、カ二大隊を右砲兵隊長利根川中佐 の指揮下に入れケラバット附近に夫々配置し連隊本部及カ三大隊長並に 野車カ七連隊カ一、カ二大隊を併せ指揮した砲兵群を衛隊ラバウル 防衛のための策威訓練に先登を用す</p> <p>連隊長 大佐 神吉武吉以下約一九〇名</p>



<p>自昭一八、七、四 至昭一九、三、三 自昭一八、八、六 至昭一八、八、五</p>	<p>自昭一八、二、二 至昭一九、三、四 オニ次ヒスマルク隊</p>	<p>自昭一九、三、三 至昭一九、一、三 オニ次ヒスマルク隊</p>
<p>オ四中隊 中隊長 中尉 西脇幸吉以下一四〇名ガスママ警備 オ五中隊長 大尉 田中弥一以下約一六〇名「プツツ」港警備</p>	<p>三「ラバウル」防衛隊（自昭一八、一、一—至昭一九、三、三） 連隊は前任務を継行す 独立山砲兵オ一の連隊より中尉 行夫 明以下約五五〇名 連隊長 大佐 神吉武吉以下約二四五〇名</p>	<p>四オ三八師団作戦地域内に於ける作戦（昭一九、三、三—一九、一、三） 連隊は師団砲兵隊として全兵力を挙げてオニ次ヒスマルク隊に参加す 各大隊の配置左の如し オ一大隊 大隊長 少佐 古田勝次 以下約六〇〇名「コボ」附近 オ二大隊 大隊長 少佐 市川定考 以下約七〇〇名 オ三大隊 大隊長 高山善六 以下約九〇〇名「ガゼル」附近 連隊長 大佐 神吉武吉以下約二四〇〇名</p>

13の外

東部ニシテ

共の三

<p>自昭ニ〇、四、一五 至同ニ〇、八、一五 カ五次ニスマルク戦</p>	<p>六 六三八師団作戦地域内ニ於ける作戦（昭ニ〇、四、一五、同ニ〇、八、一五） 連隊は前任務を続行す 連隊長 神言武吉以下約二一〇。呂</p>
<p>自昭一九二二、一 至同ニ〇、四、一四 カ四次ニスマルク戦</p>	<p>五、カ三八師団作戦地域内に於ける作戦（昭一九二二、同ニ〇、四、一四） 連隊は前任務を続行してカ二、カ三大隊の主力を東、中地区隊に配属す 連隊長 大佐 神言武吉以下約二一〇。呂 中尉 岩田和一郎以下約九〇。呂を混成カ三連隊に 中尉 松岡英夫以下約一九〇。呂を野砲ニ三連隊に 中尉 富永唯雄以下約九〇。呂を独立混成カ一四連隊に 以上夫々転属す</p>

(376)

1294

# 歩兵第ニ二八連隊略歴

<p>期商令敵々斗石稱</p>	<p>主 要 作 戦 々 斗 行 動 業 務 の 概 要</p>
<p>自昭一七一一、二六 至同二八四三。</p>	<p>南太平洋戦</p> <p>一、「ソロモン」戦（自昭一七一一二六、至同二八二八）</p> <p>連隊長 土井大伍以下約二八〇。島は「シヤウ」に於て救済中の初年兵反物件監視隊約六〇。島の「シヤウ」直下を後つことなくオ一大隊は九三〇。陸隊主力は一〇、三夫々オ一七軍司令官の部下に入るべき命令を受け「ソロモン」群島に向け進出しオ一大隊は二、八（これより「ソ」支隊</p> <p>として機動に任上陸は遅延す）連隊本部反オ二オ</p> <p>三大隊直轄各隊は二、五夫々「ガダルカナル島」及「サハロン」に上陸直にオ</p> <p>一七軍主力の作戦に参加し敵を急迫して「アフステ」山尾山瞭台の線に進出し攻勢隊尖を占領し亦敵ヲ三、オ三大隊（オ九反オ三）隊隊銃中隊の「リクス」兵隊砲隊主力は伊東少将の直轄となり中隊右翼隊となり「アフステ」山より肥前台に直る間にオ一大隊反オ九オ三隊隊銃中隊の一川隊は連隊長自ら指揮し左翼隊となり瞭台に夫々展開し尔后の攻勢を準備しありしが二月下旬に至り全般の情勢変化に伴ひ待又</p>

態勢に入り不応秘めて熾烈なる死闘下にて於て連日連夜補給困難なる  
構況下に於て死闘を続くること約七〇日比固新陣隊長高村入佐着  
任し土井大佐と任秀交代寡兵居く守地を死守し獲秘的に延進攻勢を  
を敵の要地に向向し各所に敵を破獲しも昭一七、二下旬以て敵次一  
線の兵力消耗し補給全く杜絶す加へ初旬より敵の本格的攻勢は先づ  
アフステン山次で肥前台に向向せらる。該地據点隊夫々寡兵居く陣地  
を死守し遂に敵に果敢なる反撃を加へしも秀功十分ならず。何れも  
玉碎の巴む無きに至り。塚台方面へ一、二日以て降敵の猛攻により  
左據点たる大柵中隊玉碎と肥前台陣地の崩壊とに依り敵は各陣地の  
向泰より侵入し各一線各據点反各本部は各個に優勢なる敵の包圍を  
受けしも果敢となる反撃反進攻勢に依り敵に支大の損害をあたひ  
直きは敵と十数米に相對し連日連夜苦斗を続け最終に陣地確保し  
持久の任秀を先ひし終始軍糧となり尤も河田及右翼隊並に右方部  
隊の延進を容易ならしめたり  
次て大傘に依り昭一八、二、一「ポーゲンビル島」エレベーターに延進し次期作戦  
を準備す

<p>自昭一八、五、一 至同二八、一〇、三二 大坂ヒスマルク、歐</p>	<p>部隊は「グリーン」附近の警備に任ずると共に一意再建に懸進 昭一八、七、五、「ラバウ」防衛任を受け同月八月「ワラゴイ」川地区の警備を担当し「ココエ」園に稼働準備に懸進す カニ大隊は「ガスマン」附近の警備に任ず</p>
<p>自昭一八、二、一 至同一九、三、二四 カニヒスマルク、歐</p>	<p>部隊は「ワラゴイ」川地区龍井に稼駐川地区担当の警備に任ずると共に洞窟陣地の造成に努め兵巻の創意工夫、自活生慧に敢斗し稼働準備の完成を計る此の向「ブツ」港にカニ三隊及第四隊小隊を兼置同地附近の警備に任ず</p>
<p>自昭一九、三、二五 至同一九、一〇、三二 カニヒスマルク、歐</p>	<p>部隊は昭一九、三東地区隊長 佐々木中將指揮下に在りて引続き「ワラゴイ」川地区の防衛を担当し敵の空襲下稼働準備に懸進し空疎不落の洞窟陣地を完成すると共に一人十殺の不屈不撓の士魂を養育し必勝の態勢を確立す 昭一九、五、四、カニ大隊「ガスマン」より駆進陸政被弾し之を併せ指揮す 昭一九、七、二五、軍令甲オ六七号に基き歩兵中隊を建設砲、追撃砲、連射砲の三中隊に改編し松花兵オ一六隊前に配属指揮下に入る 昭一九、七、二五 オ九中隊を「アドラー」に転進し同地附近の警備に任ぜしむ</p>

14  
の外

赤部  
ニ  
キ  
ア

其  
の  
三

<p>自昭一九二二、一 至同二〇、四、一四 才四次ヒスマルヲ戦</p>	<p>作戦準備の先壁を固ると共に必勝行事を設定し訓練察城自活の確立を 図り陸海空の敵に対しても之を完全に撃滅する準備を完了し敵愾を心 算を明しつゝ防衛戦に邁進す</p>
<p>自昭二〇、四、一五 至同二〇、八、一五 才五次ヒスマルヲ戦</p>	<p>激烈なる砲爆毒下に在りて益々作戦準備<sup>備</sup>を強化し必勝行事を完成しつゝ 毎方、ズンゲン方向より北進する濠軍を阻止し敵愾の必墜に努む當時將 兵の志気夫々衝くの態あり</p>
<p>昭二二、五、八</p>	<p>破員先結</p>

歩兵九二九連隊

期回会数々斗呂稱	主要作戦々々斗行勅業務の概要
<p>自昭一四、二二六 至同二四、二二八 自昭一五、一一五 至同一五、一一〇 自昭一五、三、一 至同一五、三、一 自昭一五、三、一四 至同一五、三、一九</p>	<p>一、連隊は昭一四、八、二、昭一四、軍令陸甲九二一号編成改正に據り連隊本部九二、九二二大隊歩兵砲隊通信隊を歩兵九二一八連隊補充隊に補て九二三大隊の歩兵九二六八連隊補充隊に於て編成</p> <p>陸軍大佐 吉武春人連隊長として着任す</p> <p>二、昭一四、一、三、豊橋衛戍地出發</p> <p>一、二、四、大坂港出帆一、三、支那支隊味省番島泉共浦上陸一、三、七、警備地広東省新会泉江門着同日より同地附近警備</p> <p>杜陵作戦</p> <p>古井附近掃蕩戦</p> <p>中山攻略戦</p> <p>川橋附近掃蕩戦</p>

(381)

1299

<p>自昭一五、五、一一 至同 一五、六、一一</p> <p>自昭一六、二、一一 至同 一六、三、一一</p> <p>自昭一六、二、二〇 至同 一六、三、二〇</p> <p>自昭一七、一、一〇 至同 一七、二、一〇</p> <p>自昭一六、二、二九 至同 一六、三、二九</p> <p>自昭一六、二、三〇 至同 一六、三、三〇</p> <p>自昭一六、九、一六 至同 一六、九、一六</p> <p>自昭一六、五、二六 至同 一六、五、二六</p> <p>自昭一六、五、二八 至同 一六、五、二八</p> <p>自昭一六、四、九 至同 一六、四、九</p> <p>自昭一六、三、一五 至同 一六、三、一五</p> <p>自昭一六、二、一五 至同 一六、二、一五</p> <p>自昭一六、一、一六 至同 一六、一、一六</p>	<p>良口会戦</p> <p>鶴州方面遮断作戦</p> <p>赤江作戦</p> <p>古井斗内附近占據作戦</p> <p>西坑鴨山附近の戦斗</p> <p>香巻攻略戦</p> <p>南部「スマトラ」作戦</p> <p>番州方面遮断作戦</p> <p>赤江作戦</p> <p>古井斗内附近占據作戦</p>
---	---



<p>自昭一六九一六 至同二六九三〇 自昭一六二二〇 至同六三三九 自昭一七一〇 至同七三二二 自昭一七二二六 至同八四三三 自昭一八二二 至同八六二九 自昭一八六三〇 至同八九三〇 自昭一八一〇 至同九三三四 自昭一九三三 至同一九三三 自昭一九二二 至同二〇一五</p>	<p>自昭一六九一六 至同二六九三〇 自昭一六二二〇 至同六三三九 自昭一七一〇 至同七三二二 自昭一七二二六 至同八四三三 自昭一八二二 至同八六二九 自昭一八六三〇 至同八九三〇 自昭一八一〇 至同九三三四 自昭一九三三 至同一九三三 自昭一九二二 至同二〇一五</p>
<p>「トリギニア」作歌 ソロモン及ビスマルク群島の衛歌 オニ次「ソロモン」歌へ「モトシヨシヤ」歌 オニ次「ビスマルク」歌 オニ次「ビスマルク」歌 オニ次「ビスマルク」歌</p>	<p>砦航鴨山附近の戦斗 香港攻略歌 朝鮮「スマトラ」作歌</p>

(383)

1301

	自昭三〇 四一六 至同三〇 八一三 昭三、五、二七
	彼鼻乞結 カ五次ビスマルノ獸

5  
7  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50

1041

(384)

1302

混成第三連隊部隊略歴

<p>期間全戦々々ヲ行ハス</p>	<p>主要作戦々々ヲ行ハス業務の概要</p>
<p>自昭一九七、三五 至昭一九一〇、三一 才三才三才三才三才三</p>	<p>「ラバウル」決戦準備、自昭一九七、三五至昭一九一〇、三一 1. 連隊は東地区隊長佐々木少将の指揮下に入り「カ」小地区隊を編成 し「北山」西麓「子」山に位置し「ガバ」か「河」マタネ川に巨る間に 上陸する敵を撃滅する任務を以て陣地構築訓練自活等に任ず 「カ」川地区隊 連隊長 中 佐 岐藤健吉 混成才三連隊（才三大隊）約一八〇〇名 混成才五連隊才一大隊長大尉倉田猪平以下約六〇〇名 照正才三 大隊才一中隊長中尉柄澤勇以下約七四〇名 重兵才三八連隊才四中队 一川隊長少尉中村孝司 2 才三大隊は師団予備隊長の指揮下に入り「カタカタ」に位置し陣地築 訓練自活等作戦を準備す 大隊長 大尉 稻葉喜一以下約五五〇名</p>

<p>自昭二〇、四、二五 至同二〇、八、一五 才五次ビシマ少戦</p>	<p>自昭一九、二、一 至同二〇、四、一四 才四次ビシマ少戦</p>
<p>三、ラバウル決戦準備（自昭二〇、四、一五、至同二〇、五、一五）      ④ 連隊は前任務を続行す      〔カ〕地区隊      連隊長 大佐 遠藤健吉      混成才三連隊（才三大隊欠）約一九〇〇名      混成才五連隊才一大隊長少佐倉田裕平以下約六〇〇名      沼才一海龍隊海軍大兵舎長以下八九名      才三大隊は前任務を続行す</p>	<p>三、ラバウル決戦準備（自昭一九、二、一、至同二〇、四、一四）      ① 連隊は前任務を続行す      〔カ〕地区隊      連隊長 大佐 遠藤建吉      混成才三連隊（才三大隊欠）約一九〇〇名      〔照空才三大隊才一中隊連隊に編合す（昭二〇、四、二一）〕      混成才五連隊才一大隊長 倉田裕平以下六〇〇名      ② 才三大隊は前任務を続行す      大隊長 少佐 稻葉善一以下約五五〇名</p>

	昭二、五、七	自昭一九七ニ五 至同ニ〇八一五 オ三、四、五次 ビスマルク戦	
	敵員名 結	<p>四、ズンゲン附近警備反戦斗（自昭一九七ニ五、至同ニ〇八一五）          陸隊は景成の児玉清ニ中隊は児玉中尉の指揮を以つて歩兵オニニ九          陸隊オ一大隊長、成瀬少佐の指揮に入り師団直轄とほり、ワイド島の          要衝ズンゲン附近に位置し敵の毒氣を以つて任務とす          昭ニ〇、三月上旬より未収せる濃厚一旅団を率領とする敵と交戦之に          大損害へ死体約八〇〇を加へ完全に敵の前鋒を阻止せるも其の大          師は玉碎せり          敵員 中尉 児玉清ニ以下約一六〇名</p>	大隊長 少佐 稻葉喜一 以下約五五〇名

工兵第百十八連隊略歴

期間会戦斗呂稱	主要作戦及斗行動業務の概要
<p>自昭一七、二、五 至同二八、三、八 「ソロモン」戦</p> <p>至昭一八、四、三〇 南太平洋戦</p> <p>自昭一八、五、一 至同二八、一〇、三一 オニギビスマルク戦</p> <p>自昭二八、二、一 至同二九、三、二四 オニギビスマルク戦</p>	<p>一、「ガ島戦（自昭一七、二、五）至同二八、三、二） 連隊長 陸軍中佐 岩淵経夫以下五〇〇名 オニギビス戦部隊として奮戦なる花爆轟下は在りて戦斗に従事す オニギビス中隊長陸軍大尉 斎藤茂代司以下約一五〇名自昭一七、二、一四より 参加す</p> <p>二、自昭一八、二、三、至同二八、三、二五 「ボーゲンベル」島に於て戦力の恢復並戦后の諸整理に任ず</p> <p>三、「モロプリテン島」「ニョーアイランド」島に於て寒賊交通作業反次期作戦 のため教育訓練現地自活に任じ戦備を強化し次戦に備へたり</p>

自昭一九、三、三四  
至同一九、一〇、三一  
次三次ビスマルク戦  
自昭一九、一、一  
至同三〇、四、一四  
才四次ビスマルク戦  
自昭三〇、四、一五  
至同三〇、八、一五  
才五次ビスマルク戦  
昭三二、三、三六

後  
長  
老  
結

18081

(389)

1307

輜重兵第三十八連隊略歴

<p>期向金戦々斗君</p>	<p>主要作戦々斗行動業務の概要</p>
<p>自昭一七、二、二六 至同一八、四、三〇 朝大平洋戦</p>	<p>一、「ソロモン」戦へ自昭一七、一、二六至昭一八、三、八 連隊長 荻田中佐 以下約三〇名（オ一中隊欠）が島作戦に参加す 昭一七、二、一五ガ島上陸 昭一八、二、三至八九。二 高地附近に於て軍需 品の輸送に任じ、五「エスペラス」に転進、独立輜重ヲ五〇中隊を併せ理 輝しオ一船舶団長の直轄として「エスペランス」に於ける舟艇に依る前送作 業並に場陸作業に任じ、三に至る、此の間激烈なる砲轟下悲戦苦斗遂 に連隊長荻田中佐ヲ三中隊長遠山中尉以下支隊戦死す 二、「ソロモン」及「ビスマルク」群島防衛戦（自昭一八、三、九、至同一八、四、三〇） 三、「ガ」島戦線離脱 四、「ボグビル」島に到着 次で三、二八、新陸隊長 幸田中佐の指揮を以て「ニトブリテン」島に転進「トベラ」集結戦後の整理並 に戦力の恢復を図る</p>
<p>自昭一八、五、二 至同一八、一〇、三一 オ大「ビスマルク」戦</p>	<p>銳意戦力の恢復を図り「トベラ」川地区の警備を担当すると共に独立自動 車三〇四中隊を併せ指揮し輸送力充輝に努め師団各隊の補給を円滑与 らしめたり</p>

7の内

東部ニヨリ

長ノ三



<p>自昭一九三、二五 至同一九一〇、三一</p>	<p>師団の築城並に彈藥糧秣の集積及軍補給諸政の軍需品の分散集積に空 襲下墜日に巨る築城なる輸送業務に従事す。此の向独立自動車六三〇 二、六三〇の四中隊を配属せられ、自動車六個中隊及先鋒したる自動車 修理川隊を以つて師団車の作戦準備に貢献す特に四上旬「ゴッポ」軍需品 集積時の業益</p> <p>防空対策には自動車の最大能力を發揮し任務を先鋒せり又駄馬六一中 隊は依然六一七師団転進のための輸送に任じ五月以降は「グレン」金華 遊撃隊の軍需品輸送に専念す懸険険険加ふるに馬糧の不足に於て馬匹の 体力低下し廢耗馬約五〇頭を出し將來の善き教訓戦訓を又数隊繰せり 七二五軍令甲六六七号に基き連隊は駄馬一、自動車三、中隊に改編す</p>
<p>自昭一九、二、一 至同二〇、四、一四 六四次ヒスマルク戦</p>	<p>作戦準備のための必勝行軍を敢定輸送本来の任務の外戦備、戦策に伴う 機動訓練歩兵的戦斗訓練並に築城自活作業を実施し愈々必勝先遂を期 す。又此の向「ガソリン」不足対策として代添自動車の改修へ師団管下 に任ずると共に自動車修理川隊を強化し師団創意兵器の製作を担当す 駄馬中隊は金華遊撃隊輸送終了、引続き悪条件下軍時運情報部の輸送 を開始す。師団の機動を容易ならしむるため六一、六三中隊を「ヒスマルク」 に六四中隊を四社に配置せしむ</p>

(391)

1309

	昭二、五、八	自昭二〇、四、一五 至同二〇、八一五 オ五次ビスマルク戦
	彼 員 宏 祐	乗放する輸送を続けつゝ、モ訓練・築城、自活に全努力を傾注し作戦率 備を完整し必勝の態勢を確立せり 八、一四終戦の大詔を授けらる

ア  
カ  
ト

東  
部  
軍  
隊  
の  
戦  
況

0081

(392)

1310

自昭和十七年七月二十六日  
至、二十年八月十五日  
部隊略歴

第三八師團矢野勸務隊

年月日

概

要

<p>自昭一七、二、二六 至一八、四、三〇 南太平洋作戦</p>	<p>一 主カヲラバウルレ警備(自昭一七、二、三一至昭一八、四、三〇) 一部(尹部大尉以下七〇名)ボーゲンビル最前(自昭一七、二、三一至昭一八、三、二八)</p>
<p>自昭一八、五、一 至一八、七、三二 第一次ソロモン島 戦</p>	<p>一 ヲラバウルレに於テ次期作戦準備並警備(自昭一八、五、一至昭一八、七、三二) ニ 羽尻上等兵、以下十名沼運射砲中隊に属シ「ニエー」ヨ「ジヤ」レ作戦に 参加(自昭一八、四、一至昭一八、九、三〇)</p>
<p>自昭一八、二、一 至一八、三、三二 第二次ソロモン島 戦</p>	<p>一 ヲラバウルレに在リテ警備並に次期作戦準備</p>
<p>自昭一八、三、一 至一八、四、三〇 第三次ソロモン島 戦</p>	<p>一 ヲラバウルレに在リテ警備並に次期作戦準備</p>
<p>自昭一八、四、一 至一八、五、三二 第四次ソロモン島 戦</p>	<p>一 ヲラバウルレに在リテ警備並に次期作戦準備</p>
<p>自昭一八、五、一 至一八、八、三二 第五次ソロモン島 戦</p>	<p>一 ヲラバウルレに在リテ警備並に次期作戦準備</p>

第三十八師田第一野戦病院部隊略歴

年月日	概	要	摘要
自昭二七・二・二六 至二八・四・三〇 南太平洋戦	「ニュープリテン」号「ガバングレ」に在りて休戦準備 (自昭二七・三・二六至昭二八・一・二六) 「ガバングレ」野戦病院開設 (自昭二八・一・二七至昭二八・四・三〇)		
自昭二八・五・一 至二八・五・三二 第二次「ピス」戦	「ガバングレ」野戦病院第一半初開設 (自昭二八・五・一 至昭二八・五・三二) 「ロンドン」野戦病院第二半初開設 (自昭二八・五・一 至昭二八・五・三二)		
自昭二八・三・三二 至二九・三・三二 第三次「ピス」戦	「ロンドン」野戦病院第二半初開設 「ロンドン」野戦病院第二半初開設 「ロンドン」野戦病院第二半初開設 (自昭二八・三・三二至昭二九・三・三二)		損 害 戦死一名
自昭二九・二・一 至二九・四・一四 第四次「ピス」戦	「ロンドン」野戦病院第二半初開設 (自昭二九・二・一 至二九・四・一四)		損 害 戦死二名

年月日		概	摘要
昭和二〇、四、一五 至二〇、八、一五 第五次 回文ルケロ戦	昭二、五、九	四上野病院開設 (自昭二〇、四、一五 至二〇、八、一五) 復員完結	

(395)

1313

第三十八師團第二野戦病院部隊略歴

年月日	概要 要
自昭一七、二二六 至昭一八、四三八 戦 南太平洋	一 「ニエープリテン」最田ノ浦に在りて依戦準備並警備（自昭一七、二二六至昭一八、一、二四） 二 「ニエープリテン」最「ガバンガレ」に在りて野戦病院内勤務（自昭一八、一、二五至昭一八、三、三） 三 「ニエープリテン」最「ロンケイプル」に在りて依戦準備並警備（自昭一八、三、三至昭一八、四、二八）
自昭一八、四三九 至「一八九三」 第二次 ソロモン戦	一 「ソロモン」群島「ニエージエージヤ」諸島「コロバンガラ」最に在りて野戦病院開設並同地警備 （自昭一八、四三九至昭一八九三） 陸軍軍医少佐坂野長夫以下二四八名参加
自昭一八九三 至「一八〇一」 第一次 コスマルフレ 戦	一 「ニエープリテン」最「ココボレ」に在りて警備 （自昭一八九三至昭一八、五、三一） 二 「ニエープリテン」最「トクアラ」に患者療養所用設 （自昭一八、五、三一至昭一八、五、三一） 陸軍軍医中尉 吉田 進 以下一八名

の外 東ニユー

年月日	概	要
自昭二八、三、三 至二九、三、三 第二次 コリスマルク戦	一、 「ニュープリテン」最「ココバ」に在りて警備 (自昭二八、三、一 至 昭一九、三、一六 日) 二、 「ニュープリテン」最「トクア」療養所開設勤務 (自昭二八、三、一 至 昭一九、三、二二) 三、 「ニュープリテン」最「ナマレ」に在りて作戦準備 (自昭一九、三、一七 至 昭一九、三、二四)	
自昭一九、三、三 至一九、三、三 第三次 コリスマルク 戦	一、 「ニュープリテン」最「ナマレ」に在りて作戦準備 (自昭一九、三、三 至 昭一九、四、三) 二、 「ニュープリテン」最「保」に在りて作戦準備並に警備 (自昭一九、四、四 至 昭一九、八、九) 三、 「ニュープリテン」最「保」に在りて作戦準備並に警備 (自昭一九、八、九 至 昭一九、三、三) 第二野戦病院開設 「ニュープリテン」最「保」に在りて第二野戦病院開設(自昭一九、三、三 至 昭一九、四、一四)	
自昭二〇、四、一 至二〇、四、一 第四野戦病院開設	「ニュープリテン」最「保」に在りて第二野戦病院開設(自昭一九、三、三 至 昭一九、四、一四)	
自昭二〇、四、一 至二〇、四、一 第五野戦病院開設	「ニュープリテン」最「保」に在りて第五野戦病院開設 (自昭二〇、四、一 至 昭二〇、八、一五)	
昭三、五、三	復員完結	

第三十八師團 救護隊 概略 歴

年月日	概略
自昭七、二、一 至、八、二、八 ソロモン戦	一、救護隊長陸軍獣医少佐林次郎以下七名師團救護隊として、ラバウルに上陸 自昭七、二、一 至、八、二、八 田ノ浦に開設（此の間他部隊救護隊の收療及 自昭七、二、一 至、八、二、八 次期依戦準備に従事
自昭八、二、九 至、四、三、三 ソロモン反回戦 の群島防上戦	一、一、二、エーブリテンに自昭八、三、三、至昭八、三、三、一、ガバングに開設 二、自昭八、四、一、至昭八、八、三、一、木橋に開設此の間部隊の救護隊收療並他部隊候 三、昭八、四、二、救護隊長陸軍獣医少佐若下似三雄と交代す
自昭八、五、一 至、八、三、三 第一次ソロモン戦 自昭八、二、一 至、八、三、三 第二次ソロモン戦 自昭九、三、三、五 至、九、三、三、三 第三次ソロモン戦 昭三、五、九	一、自昭八、九、一、至八、三、五、コウラトワに自昭九、二、六、至昭九、八、二、四、駒沢に開設此の間他部隊救護隊收療預托候の管理及次期依戦準備のための訓練 自若等に 二、昭三、二、三、救護隊長陸軍獣医少佐土屋義隆と交代す 復員 完結



第六十五旅団司令部

年月日	概	要
<p>自昭七、十一、三〇 至、十二、三二 西南太平洋 への戦進</p>	<p>一 戦進 旅団司令部は北都召營「バギオ」に在りて勘定隊参加中士ニシテ旅団主力の急遽西南太平洋への戦進を命せざるや同日三〇日「マニラ」港を突敵空海の噴滅至激なる大洋を海軍艦艇により前進十三日「ニエーグリテン」島「ラバウル」港に上陸す</p> <p>二 兵力 旅団長陸軍中尉奥野五郎以下勅ニ〇名</p>	<p>一 旅団は田ノ浦地区警備及「ラバウル」地区飛行場の設定並に補修の作業に從事す 司令部は田ノ浦へ（ウナリヤ）に遷營し警備及諸勤務並に教育訓練（特に上陸戦斗）に専念せり</p> <p>二 兵力 旅団長陸軍中尉奥野五郎 以下ニ〇名</p>
<p>自昭六、五、一 至、五、三二</p>	<p>一 旅団は西部「ニエーグリテン」島警備及第十八軍に対する矢張り業務に飛行場の設定作業に從事す司令部は同地に於ける指揮機関として五月十二日同島「ツルブル」に転進同地に遷營し主力の任務達成のため警備及諸勤務に從事す</p>	

(399)

1317

年月日	ビスマルク戦
概	<p>九月五日第六十五旅団司令部第四船船田司令部を併合し松田支隊司令部を編成を隸行す</p>
要	<p>二 兵力</p> <p>旅団長代理陸軍大佐片山憲四郎以下二一五名</p> <p>(イ) 旅団司令部は「ツルブル」地区に対する敵の砲撃隊の日々熾烈となるなかを松田支隊指揮機関の中樞として困難なる状況下依然前任務を隸行す</p> <p>(ロ) 十二月初旬同地区に対する敵上陸の企圖の察知するや「エガロツプル」に移動敵来攻に備へ同地に於て前任務を隸行す</p> <p>(ハ) 十一月六日「キリゲレ」ナタモレ地区に敵上陸するや支隊は全兵力を以て之を小隊に撃滅すべく奮戦せり言語に絶する勇戦を遂げしに於て奮戦せり</p> <p>司令官前任務を隸行の傍ら第一線に対する洋楽糧秣補給を実施し前線の指揮を鼓舞すること大なるものあり</p> <p>(ニ) 支隊主力駆進を命ぜらるや一月十九日同地を出發陸路へ一部は海上機動に依り「悪天滄瀟を肩して強行軍の隸行四月三十日「シナツプル」に到着同日支隊司令部の編成を解る</p>

年月日	概	要
<p>自昭一九四九 至一九五〇 三月 ビスマル ノ戦</p>	<p>三 兵力 旅团长陸軍少将 松田 巖 以下二一五名 旅団は「トーマ」附近に位置し方面軍の豫備隊となり陣地構築及道路の補修並に現地自若態勢確立に邁進す 司令部は「トーマ」に位置し宿営設備を完成し旅団主力の任務遂成の爲着勤務に従事す 現地自若態勢確立の爲管理部長陣頭指揮の許に精進せり</p>	<p>二 兵力 旅团长陸軍少将 松田 巖 以下 勅一五五名 旅団は前任務を継行並に各種戦斗訓練(特に対戦車戦斗)を実施すると共に愈に現地自若態勢を強化せり又昭三十一月以降方面軍特別幹部教育を担当実施す 司令部は前任務を遂行すると共に各種戦斗訓練に邁進し益々現地自若態勢を強化す 方面軍特別幹部教育の宿泊給養を担当実施す</p>
<p>自昭一九四五 至一九四九 第四次 ビスマル ノ戦</p>		

年月日	概      要
昭 天 八 五	一 兵力 旅团长陸軍少將 松田 巖 以下 筋一五〇名
自昭 天 八 五	一 前任務を継行す
第五 次	二 兵力 旅团长
ビス マル	陸軍中將 松田 巖 以下 筋一五〇名
ク 敷	復員 岩 皓
	昭二、五、一七

1320